

2025年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
東京アニメーター学院専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 東京アニメーター学院専門学校関係者評価委員会は、2024年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 実施日
令和7年8月28日
2. 学校関係者評価委員会
大野 正拓 デジタル出版社連盟コミックビジネス研究部 部長
浅尾 芳宣 株式会社BENTEN Film 代表取締役
園江 泰洋 株式会社バニラシュガースタジオ プロデューサー
森田 和義 株式会社サイプレス チーフプロデューサー
浅野 健一 株式会社向陽デジタルワークス 代表取締役

(事務局)
東京アニメーター学院専門学校 校長 鈴木智也
東京アニメーター学院専門学校 前芝敏也

3. 学校関係者評価・意見

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価 NA：当てはまらない

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育成人材像	1	理念・目的・育成人材像	80%	当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。 ■教育信条 将来の社会発展のために、学習意欲がある全ての世代の方に学習機会を提供し、将来の社会発展・平和に寄与できる人材を育成する。 ■教育目的 「簿記、税務、情報処理、法律、行政、医療、保育、福祉、アニメ、イラスト、声優、スポーツ、製菓、美容、歯科衛生、自動車整備並びにこれらのビジネス等に関わる教育及び人格の陶冶を行い、有為な産業人を育成する」ことを目的とする。 ■次に掲げるディプロマポリシーに基づき、本学での学習を修了した学生に卒業を認定します。 1. 在学期間を通して、出席状況や学習態度が良好で、真摯に取り組んだことが認められる 2. 大原学園が教育課程ごとに規定する必要な時間を履修し、専門的な知識やスキルを身につけていると認められる 3. マナーやコミュニケーションなど、社会人としての基礎力を身につけており、社会への貢献が期待できる この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている 専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした 附帯教育 を二本柱にしながら、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。 これらの教育理念・目的・育成する人材像は、大原学園ホームページなどで周知徹底されている。その教育理念・目的の下で、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。 教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めている	学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。 教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。	適正に運営されている。
		3	事業計画	定めている	組織運営は適切である。理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に開催し、必要な議決を行い、記録に残している。	適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	職務分掌と責任に関する規定があり、教職員に配布されている。また、運営組織図はイントラネットなどを通じて教職員に配付されている。	適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	80%	職種別職能等級規定および人事考課制度規定を施行しており、適性や考課に基づいて昇進・昇格・採用・異動など人事システムを通じて適正な運用を行っている。また、新入社員研修、等級研修、新任管理者研修などの各種研修により人材育成にも力を入れている。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価 NA：当てはまらない

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	6	意思決定システム	90%	理事会・評議員会・学校運営会議など階層ごとの意思決定システムが存在していて、それぞれの意思決定者とその職務や権限も明確にされている。	適正に運営されている。
		7	情報システム	70%	学生管理・授業料管理・人事給与管理など多くのシステムを導入して、正確で迅速な対応を可能にし、業務の効率化が図られている。	適正に運営されている。
		8	目標の設定	設定している	毎年、教育課程を編成するにあたり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	＜マンガ・イラスト学科＞各種メディアのデジタル化に対応できるように、時代に合ったクリエイターを育てている。専門技術の向上として、関連するソフトウェアを指導することで、新たな事業体系でも活躍できる人材育成をめざしている。 ＜アニメーション学科＞作画技術のほか、制作管理についても幅広く理解させている。制作スタイルの多様化に伴い、必要なポジションへの業務対応ができるよう指導を進めている。 ＜声優タレント学科＞声優になるための知識・技術指導に加え、各メディアで自ら発信できる人格と技術を持った人材育成をめざしている。
		9	教育方法・評価等	80%	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては卒業生、近隣住民、関連企業等と協力した検討会によっている。 また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善を行っている。	＜全学科＞授業進行に関しては、課題内容のステップアップに合わせて定期考査を実施し、個々の技術習得度、制作速度などを把握している。また、授業科目ごとの習得度が偏らないように、課題の提出期限、制作発表の時期などを明確にして取り組んでいる。 ＜アニメーション学科＞学生一人一人の評価がクリエイティブな要素に偏らないように、演出助手や制作進行の育成も考慮して授業を行っている。 ＜マンガ・イラスト学科＞授業においては、CLIP STUDIO PAINT、PhotoShop、Illustratorのほか、Webデザインや映像系ソフトも取り入れることで、個々の学生の興味と長所を伸ばし、描写力以外でも評価するようにしている。 ＜声優タレント学科＞オーディションを受ける対策だけでなく、学んだ技術を生かして自らをアピールする機会を推奨している。演劇や朗読の発表や地域ボランティアなどで人と接することで、声優の技術を生かせる仕事が豊富にあることを学ばせている。
		10	成績評価・単位認定等	80%	成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。 「学則」整備に関しては毎年実施しており、詳しい学校情報やシラバスはホームページに公開している。	
4	学修成果	11	資格・免許の取得の指導体制	70%	資格・免許の取得に対しては、任意で受験できるように体制を整えている。	適正に運営されている。 普通自動車免許（夏季合宿）の案内 色彩検定（大原社会人講座） パソコン（MOS）（大原社会人講座）
		12	教員・教員組織	70%	常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	常勤教員は、科目ごとの担当教員と協議し、教材の選定やシラバスの作成を行っている。授業の進行や学生の状況に関しては、担当教員と連絡を取り合い、指導力を高める努力をしている。また、知識や技術の専門性・指導力を高めるため、定期的に教員研修を行っている。
		13	就職率	70%	就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職部スタッフが個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。 また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。本校はデビューやフリーランスをめざす者が多く、就職率には反映しないが学生の希望は概ね達成している。	アニメやマンガ業界においても、近年、正社員化が進むなど採用条件に変化がみられる。関連業界が求める人材育成をすることで、就職率の向上も見込まれる。
		14	資格・免許の取得率	70%	求められる技術、人材を常に把握できるよう、業界関係者とのネットワークを日々広げている。多くの人材を業界に輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。今後も引き続き、就職活動に有利になる技術を研究する必要がある。	適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	80%	企業関係者からの情報に基づき、学生指導に役立てている。課題発見能力、課題解決力が不足している点を複数の企業担当者から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	適正に運営されている。
		16	就職等進路	60%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。 就職内定獲得に必要な指導内容は、2年間のカリキュラムの一環として組み込まれ、学生の希望に沿った内定を実現している。	＜全学科＞ 学生に様々なソフトを学ばせたり、新しい知識と技術を学ばせることで、複数の募集職種に対応できる汎用性のある人材を育てている。 担任による個別の面接指導や授業内での発表機会でプレゼンテーション技術を学んでいる。自己のアピールポイントを伸ばし、対面でのコミュニケーション能力を高める指導をしている。 関連業界で働く卒業生と連絡を取ることで情報

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価 NA：当てはまらない

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	17	中途退学への対応	60%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。ご家庭との連携も欠かせない。	適正に運営されている。
		18	学生相談	70%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	学習指導は入学時より、就職指導は1年次より開始している。知識や技術の上達に合わせて、現実がわかってくる時期から、個々の学生に合わせて適切な指導をしている。
		19	学生生活	70%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。各学科の作品発表に向けた実習や大原学園共通のイベントにも積極的に関わっている。年度末公演、年度末作品展については、各企業に協力いただき、現在の業界のニーズに応じた実践的内容で実施することができている。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	高等教育の無償化の申請に必要な教育の整備や、各種奨学金が受けられるように、良好な成績を収めさせている。 学生同士が切磋琢磨できる環境として、制作実習、作品展や演劇発表の場を設けている。
		20	保護者との連携	70%	ご家庭への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書の発送前に、保護者等への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者等に來校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取ることが難しく、また、理解を得られないケースも年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	適正に運営されている。
		21	卒業生・社会人	70%	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口に関わり合いに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関連部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。さらなる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。また、大学卒業や社会人などのニーズにも応える制度の開発をさらに進めていく。	学校に協力依頼のあった企業案件のうち、フリーランスで活動する卒業生にも仕事を提供するなど、実践的なサポートができている。卒業後も、学内で行う作品審査会やオーディションへの参加を許可し、デビューの機会を与えている。
6	教育環境	22	施設・設備等	80%	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	＜アニメーション学科・マンガ・イラスト学科＞ パソコン教室、制作実習室、デッサン室などの環境と、ミーティングや作品制作、休憩などにも使える学生ロビーを完備している。 ＜声優タレント学科＞プロユースのレコーディングスタジオやライブステージ、レッスンスタジオもあり、各種授業（マイクワーク、スタジオ内の立ち居振舞い、演劇やダンス、歌唱のレッスンなど）を実践的に行う環境が整っている。
		23	学外実習、インターンシップ等	70%	実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。 研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	＜マンガ・イラスト学科＞イラストレーション制作、漫画制作など学外からの依頼を受けている。作品公募に関しては積極的に参加している。 ＜アニメーション学科＞TVアニメーションの原画・第二原画を受けている。 ＜声優タレント学科＞プロユースの学内スタジオに企業を招き、音響制作を行っている。 ＜全学科＞就職活動に伴うインターンシップ・企業研修については、個々の学生の履修状況（単位取得状況）や、卒業に必要な授業との兼ね合いを考慮して実施している。
		24	防災・安全管理	60%	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。 防災マニュアルを準備し、職員より各クラスで災害発生時のルール確認を行い、災害に備えている。備蓄品等の設置も行っている。 夜間や休日の防犯・防災対策として、警備会社によるシステムを導入している。	適正に運営されている。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動は、適正に行われているか	80%	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。留学生については、日本語学校への情報提供、連携を強化し、適正な受入れ、在籍管理を行っていく。	適正に運営されている。
		26	入学選考	80%	学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。 入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。	適正に運営されている。
		27	学納金	適正に行っている	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認しながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。
		28	財務基盤	安定している	学生募集については、学科による変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価 NA：当てはまらない

大項目		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
8	財務	29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を開催するなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。 外部者による学校関係者評価を行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。 今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	70%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	適正に運営されている。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	50%	附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。 地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたものも提供したいと考えている。	適正に運営されている。
		37	ボランティア活動	50%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体等のボランティアに参加している。	適正に運営されている。

6. 学校関係者委員会総括

東京アニメーター学院専門学校で学習環境、学校運営等の取り組みについて自己点検評価を基に検証を行った結果、適正に運営されていると評価できるといえる。また、目標に向かって教職員全員が丸となり学校運営、教育活動に取り組んでいることが分かる。アニメーションやデザイン業界の就職は、職種別に求められるスキルが異なり、求職者の能力でも採用条件が異なる為、学校では常に社会で求められている人材育成を意識して、より良い教育環境、学校運営ができるようにPDCAを繰り返しブラッシュアップを図ってほしい。また、新しい取り組みを積極的に行うことで、各学科で革新的な学校になって欲しいと考える。そのために、学校関係者評価委員一同で、客観的な視点から様々な提言をして、検証することで、社会からの信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと考えている。